

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473000758
法人名	株式会社 コスモス
事業所名	グループホーム 樺
訪問調査日	2018年11月28日
評価確定日	2019年2月22日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473000758	事業の開始年月日	平成16年5月1日	
		指定年月日	平成28年5月1日	
法人名	株式会社 コスモス			
事業所名	グループホーム 樺			
所在地	(242-0024) 神奈川県大和市福田1842			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年11月19日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本施設は看取り介護を行っており、ケースによっては看取り介護ができない場合もある。看取りについてご家族の意向は常に変化するものと考え、提携している大和ホームクリニック、ご本人及びご家族、施設、で話し合い最善の方法を導けるよう努めている。行事などでは毎年12月にクリスマス会を開催している。出張出前寿司やビンゴゲーム、南京玉簾など盛沢山の内容でご利用者様やご家族、ボランティアで手伝ってくださっている地域の皆様を楽しめるように努めている。最近では同法人内にて南林間に「楓シンフォニー」というコレクティブカフェをオープンいたしました。それに伴い、樺の利用者様用のプランとして1回1500円にて送迎、昼食、コーヒー、デザートを提供できるよう準備している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年11月28日	評価機関 評価決定日	平成31年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社コスモスの経営です。同法人は、グループホーム2ヶ所と高齢者専用賃貸住宅、コレクティブカフェを運営しています。今年の10月より南林間のディサービスをコレクティブカフェ「楓シンフォニー」と変えて新たにオープンしています。「楓シンフォニー」は飲食だけでなく、マッサージ機、カラオケ、リハビリ器具等が設置されている他、研修や教室を行うレンタルスペースもあり、地域のコミュニティスペースとしての役割をになっています。ここ「グループホーム 樺」は、小田急線「高座渋谷駅」から徒歩10分程の位置にあり、近くには引地川が流れていて時々「カワセミ」も飛んでくる程の、自然も残る静かな場所に位置しています。引地川の少し上流には「引地川・千本桜」と呼ばれる場所があり、両岸の川面を覆うように桜のトンネルが「桜の名所」に相応しい幻想的な美しさを創り出しています。毎年「千本桜さくら祭り」も開催され、利用者も参加して楽しんでいます。

●管理者は、職員の充足に伴い、職員一人ひとりのレベルを把握して内部研修や外部研修を取り入れ、職員のスキルアップを進める計画をしています。また、年間の行事についても、外出行事を増やすなど、全体の行事を増やして行くことを予定しています。また、新たにオープンした「楓シンフォニー」は比較的事業所から近い場所にあることから、利用者の方々にプランとして「楓シンフォニー」にお連れして、昼食やコーヒー、デザートを召し上がって頂いたり、地域の方との交流できる場所として活用していきたいと考えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 櫛
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。2. 家庭的な環境の下で食事、入浴、排泄等身の周りの世話及び日常生活の中でのレクリエーション、機能訓練等を行います。3. 利用者の有する能力に応じて可能な限り自立した安心と尊厳のある生活が営まれるよう支援。を玄関に掲示し実践している。	開設当初に作成した事業所独自の理念を、現在も継続して取り組んでいます。近年、職員の入れ替えもあり、理念を職員に周知するため、事務所内にも掲示をして朝・夕の申し送り時などに理念を唱和して行く予定でいます。課題発生時などは、理念に沿ったケアが出来ているか確認をしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に毎回地域の自治会長、民生委員に参加していただき地域行事等の情報を得ている。また、地域包括支援センターの認知症カフェなどにも参加している。	自治会長や民生委員の紹介で、自治会行事のミュゼン祭り・千本桜さくら祭り・盆踊りなど積極的に参加しています。事業所主催のクリスマス会では、自治会長がサンタクロースに扮してのプレゼント配りや、ボランティアの南京玉すだれ等を披露して頂いています。また、地域包括支援センターの認知症カフェにも参加して、地域の方や、他の施設の方との交流も図っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設開所当時は小学校に認知症や介護の授業をしに出向いていたが、最近はできていない。現在、課題が山積しているため、ある程度処理できてきたら再開していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。同業者ではない方の意見などを聞くようにしている。その中で話の中に出てくるのは、「異業種であっても、考え方は品質の徹底管理が肝要」ということである。現在、品質は満足できていない状況であるため更なる努力をしていきたい。	運営推進会議は、奇数月の2ヶ月に1回、年6回開催しています。参加者は、自治会長・民生委員・大和市介護保険課職員・地域包括支援センター職員などで、事業所からは利用者の近況報告などしています。異業種経験の参加者から、品質管理などの話や意見があり参考にしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいているが、日頃からの密な連絡とまではいっていない。ただ、判断が難しい場合や、困ったことが起きた時は、相談するようにしている。	生活保護受給者の方が過半数入居されており、その関係で、市役所介護保険課や生活保護課との連絡や来訪もあります。市役所からの各種情報と研修案内などが、郵送で送られて来ています。介護相談員の受けも行っており、3ヶ月に1回の訪問があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	切迫性、一時性、非代替性を満たさなければ、身体拘束は行えないことを常日頃から説明している。玄関の施錠は行っていないが中扉の施錠は行っている。しかし認知症状が軽い方は簡単に開錠することができる。	身体拘束防止のマニュアルや指針を決て、マニュアルに沿った研修を定期的実施しています。また、身体拘束委員会も設置し、身体拘束の無いケアに取り組んでいます。運営推進会議では身体拘束についても話をしています。玄関の施錠は、日中は行わず中扉の施錠をすることがありますが、夜間は防犯のため施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて5つの虐待があることを指導している。また、虐待と知りつつ見て見ぬふりも同じように罪が重いと伝えている。職員に現場に入る前にプラスの関わりとマイナスの関わりを読ませている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業に関しては職員は理解できていない人が多い。成年後見人制度は年に数回説明している。活用する場面は今の所少ないが、必要性がある時は活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。契約締結時に読みあわせを行い、疑問点も尋ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットに設置している。また、職員にも利用者様、ご家族の要望があったらその都度報告するように指導している。運営に反映するケースは稀だが反映したケースもある。	意見箱を各ユニットに設置して家族の意見を頂く事も有ります。家族の面会時には、職員が利用者の近況報告をしています。また、毎月全家族へ月の出来事を手紙で個別に報告している他、隔月に「コスモス通信」と称して、行事の結果や予定等を写真添付で送っています。意見や要望が聴かれた際には、業務日誌に記録して朝・夕の申し送りでも共有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案を聞く機会を設けることは、時間を定めて定期的にとすることはしていない。しかし、提案があれば聞くようにしている。具体的に反映されたケースは、重要事項に関わるケースは全く無いが、各ユニットごとの特徴という部分では反映例がある。	代表者が、年に1~2回全職員を対象に面接を行っています。管理者は、朝・夕の申し送り時に話を聴き、相談事などが有れば、その都度話を聴いています。今後は、ユニット会議を毎月、2ヶ月に1回は全体会議を行うことを目標にしています。運営に関する意見や提案は、代表者と検討の上反映しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。キャリアパス、面接を通して評価している。勤務態度が優良な方には資格取得支援も視野にいれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	拘束や虐待の社内研修は随時おこなっている。職員それぞれの得意分野は評価し、苦手な部分に関しては個人の問題にせず、相互にフォローしあうよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は、認知症カフェ、楓シンフォニーで交流する場を設けている。楓シンフォニーでは研修会も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に重点を置いている。認知症の程度にもよるが、ほとんどの場合サービス利用開始段階は環境変化に対応できない諸症状が出やすい為、安心を得られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている。利用者様同様に困っていること等に耳を傾け不安を取り除くように努めている。また、グループホームでの生活について詳しく説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望がある場合や必要と判断した場合は他施設（特養など）に同時に入居希望を提出することを勧めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行具合によって、できている方とできない方と差ができてしまうが、極力、共有と共感ができるように支援している			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべてのご家族様と等しく絆をもって、ご本人を支えるという関係はできていない。遠方にいるご家族やあまり来られないご家族様とは関係構築が難しい。よく来ていただけのご家族様とは良い関係ができています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の訪問も制限はしていない。現在もご友人の訪問は頻繁にある。	家族や友人が、月に1~2回は面会したり、少なくとも年に1回は、全家族の方が面会しています。買い物などの外出希望をされる方に対しては、個別で対応しています。携帯電話を持ち込まれている方は家族と連絡を取り合っている方もいます。職員が利用者宛に年賀状を出し、正月行事を思い出せるよう支援も行っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の合う合わないはあるが、基本的には良い関わり合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係が続くことは稀だが、一名だけ自宅復帰された方の経過フォローは行っていた。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。最近は意思表示ができる方が多くなってきた為希望や意向を良く聴くよう指導している。意思表示ができない方に関しては、できるだけ何が必要なかを常に考えながら支援するように指導している。	利用者の入れ変わりがあり、意思表示の出来る方が増えています。入居前の面談で、過去の生活歴や既往歴、暮らし方の希望を聴き、記録に残しています。その後は、居室担当者を中心に利用者の希望、意向を傾聴するように心掛けています。今後は、利用者の個人記録ノートなどを用意して、情報の収集を行う予定としています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りの段階で、ご本人の歴史、現在の生活リズム、他のサービスのお利用状況を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後も常に把握するように努めている。また、機能維持できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っている。その際、ご家族とも連絡を取り、意見を反映させた上で同意を得ている。また毎月そのつきの様子を書き記した手紙を送付している。	介護計画のサービス内容は、毎日チェックして、月毎にフェイスシートでモニタリングをしています。計画作成者は、特変など無ければ6ヶ月毎にケアカンファレンスを開催して、介護計画の更新をしています。来訪の無い家族へは、郵送で介護計画書を送り、電話で説明して、変更希望等の確認の上、承認を頂き、返送して貰っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。以前は業務日誌と申し送り帳は別だったが、統一することにより、より簡単に情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	楓シンフォニー（前デイサービス）という同法人内の部署を樺の利用者様も利用できるように整備した。毎週水曜日に利用できる体制を本年の12月から一回1500円にて利用できる。運営推進会議でも報告済みで、自治会長、民生委員の方にも誘致を依頼した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、地域自治会、民生委員、地域包括支援センターの協力を仰ぎながら、地域行事に参加できるように支援している。盆踊りや、フェスティバル、各お祭りに参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。大和ホームクリニック、グリーン薬局、虹色デンタルクリニック、藤和マッサージ、関水整形外科、桜ヶ丘中央病院、湘陽かしわ台病院と関係を築き、適切な医療を受けられる体制を整えている。	現在は全員協力医療機関の訪問診療を受けています。定期健診や予防接種は、協力医療機関で行われています。歯科衛生士が、週に1回来て全員の口腔ケアを行い、治療が必要な場合はその都度往診があります。他科の受診が必要となった場合は、協力医の紹介状で受診をしています。職員の看護師は、健康管理や職員の医療相談に対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体的な変化は、その必要性の種類によって訪問診療の看護師、施設内の看護師と振り分けている。ケースによって様々だが、新しい症状や医師の診察の可能性の割合によって分ける場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。ご家族ができる範囲はお願いしているが、ご家族の協力が得られない場合は、蜜に連絡を取り合い早期退院できるように協働している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の説明はその必要性があると判断した時はもちろんのこと、契約時にも説明している。大和ホームクリニックと共にご本人やご家族が安心納得できるように支援に取り組んでいる。	入居契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」及び、延命治療の有無について説明・確認をしています。重度化した場合は、医師、本人及び家族、事業所で話し合い、最善の方法を導けるよう努めています。ここ最近、数名の方の看取り実績があり、今後は、職員の心肺蘇生や応急手当など、救命講習を受講させたいと考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できていない。今後、救急救命、応急手当の訓練に取り組んで行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員は身につけていない。異動や退職者があつたため。地域との協力体制はできている。定期的に防災訓練はしているが、水害の訓練はできていない。	防災訓練は、年2回行い、1回は消防署の立ち合いの下に実施しています。昨年、自治会主催の防災訓練にも参加して、避難場所の確認や、水害時に事業所を避難所として開放する旨も検討しています。防災設備の点検も年2回実施しています。備蓄品は米、水、レトルト食品などが3日分用意しています。防災備品のヘルメットや、防災ズキンは今後、用意していく予定でいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊重するように指導している。カーテンやドアのノック等、基本的なことはもちろんのこと、言葉遣いは特に注意するように指導している。	入職時は新任研修で、接遇やマナーについても説明して、その後もコンプライアンスや法令遵守についても研修を行い、理解を深めています。管理者は、同じ言葉かけでも言い方によっては取れえ方が異なるという事を日常的に職員に話をしています。排泄介助や入浴介助時は、扉やカーテンの開閉には留意しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。現在の入居者は認知症状が軽度の方が多くなってきたので、自己の意思決定を尊重するよう職員に指導、実践している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の相談内容に、明らかな業務中心的な思考が内在している場合がある。そのときはまず、利用者本意になっているか、ご本人の納得できるポイントはどこにあるかを探るように指導及び支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。できればお化粧品と称した機会を設け外出する日を設けて行きたい。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。できる方は女性利用者様がほとんどではあるが、食事の下ごしらえ、食器拭きなどを手伝っていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。起床時、10時、昼食時、15時、夕食時水分補給できるように支援している。また食時摂取量が少ない方に関しては、個別に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士に口腔ケアを行ってもらっている。また毎食時後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している利用者様であっても、トイレで排泄するように支援している。	オムツを使用されている方が、数名居ますが日中はリハビリパンツで対応し、極力トイレで排泄出来るよう支援しています。利用者1人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、昼夜共にトイレで排泄が出来るよう心がけた支援に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材提供業者に依頼している関係で食事内容の工夫は可能な範囲に限られているが、食後の運動は個々の能力に応じて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在、週二回の入浴日となってしまう。日曜日を自由入浴日として取り組んだ時期もあったが、定着していない現状がある。	入浴は、平日の午前中、週2回を基本としています。入浴拒否のある方については、同姓介助や、声掛けを工夫しながら入浴を促しています。重度化された方などは、2人介助で浴槽に入って頂けるように支援しています。入浴時のバイタルチェックなどの状態報告に、皮膚チェック欄を設ける予定としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由だが、なるべく昼夜逆転しないように支援している。それでも昼夜逆転してしまうご利用者がいらっしゃるの、今後の課題である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、投薬チェック表に薬名も記載しており、すぐに確認できる状態にしている。変化があった場合は、まず薬の情報を見るように指導実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を送れるように支援はできていない。今後、個別に外出支援できるような支援を考えて行きたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	近隣の公園や、ドライブなどには出かけているが、個別に外出支援できていない。ご家族の協力を得られる人とそうでない人。生活保護受給している方と一般の方との区別はどうすればよいかも含めて更に工夫できるようにしていきたい。	天気や気候の良い時には、週1回以上は散歩に出られるように支援しています。事業所の裏山には菜園があり、日光浴や気分転換に、じゃが芋・さつま芋など野菜の世話や収穫に職員と一緒に出掛けています。季節の外出では、引地川沿いの千本桜祭りや、盆踊り、コミュセン祭り等に出かけて、地域の方々との交流を図っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方は所持してもらっている。使う場面は少ないが、今後使う場面を増やして行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。希望者のみだが応じている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を感じれるように工夫している。	リビングは広く、床暖房も完備されています。1階、2階共にスクリーンが有り、季節行事などの、貼り絵や、折紙などを作成して貼り出しています。また、日付と曜日が解る大きなカレンダーが壁に掲示され、毎日、利用者と一緒の日付を確認しています。リビングの畳コーナーは、ボランティアの方が、三味線、南京玉すだれ、ビンゴ等を披露するステージとして活用しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に工夫している。一人で過ごしたい方が多い現状ではあるが、食事の時の席順には十分に気を配っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた箸や湯のみから、ベッドやお布団まで持ってきていただくようにしている。	各居室にはエアコン・クローゼット・防災カーテン・ベッド・洗面台が備え付けられています。入口扉の直ぐ後ろには、カーテンがあり、扉を開放しても居室内が見られない様プライバシーにも留意されています。表札は、花の名前と写真で自分の居室が分かるように工夫されています。使い慣れた整理ダンス・テレビ・鏡台、仏壇などが持ち込まれ、好きな位置に配置されています。掃除は、毎週日曜日を掃除の日と決めて、職員が行っています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。現在はできる方が多くなってきており、環境づくりに気を配っている。できない方に関しても、できる箇所を探すよう指導実践している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 櫛

作成日

平成30年11月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 櫛
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。2. 家庭的な環境の下で食事、入浴、排泄等身の周りの世話及び日常生活の中でのレクリエーション、機能訓練等を行います。3. 利用者の有する能力に応じて可能な限り自立した安心と尊厳のある生活が営まれるよう支援。を玄関に掲示し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に毎回地域の自治会長、民生委員に参加していただき地域行事等の情報を得ている。また、地域包括支援センターの認知症カフェなどにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設開所当時は小学校に認知症や介護の授業をしに出向いていたが、最近はできていない。現在、課題が山積しているので、ある程度処理できてきたら再開していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。同業者ではない方の意見などを聞くようにしている。その中で話の中に出てくるのは、「異業種であっても、考え方は品質の徹底管理が肝要」ということである。現在、品質は満足できていない状況であるため更なる努力をしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいているが、日頃からの密な連絡とまではいけていない。ただ、判断が難しい場合や、困ったことが起きた時は、相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	切迫性、一時性、非代替性を満たさなければ、身体拘束は行えないことを常日頃から説明している。玄関の施錠は行っていないが中扉の施錠は行っている。しかし認知症状が軽い方は簡単に開錠することができる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて5つの虐待があることを指導している。また、虐待と知りつつ見て見ぬふりも同じように罪が重いと伝えている。職員に現場に入る前にプラスの関わりとマイナスの関わりを読ませている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業に関しては職員は理解できていない人が多い。成年後見人制度は年に数回説明している。活用する場面は今の所少ないが、必要性がある時は活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。契約締結時に読みあわせを行い、疑問点も尋ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットに設置している。また、職員にも利用者様、ご家族の要望があったらその都度報告するように指導している。運営に反映するケースは稀だが反映したケースもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案を聞く機会を設けることは、時間を定めて定期的にとすることはしていない。しかし、提案があれば聞くようにしている。具体的に反映されたケースは、重要事項に関わるケースは全く無いが、各ユニットごとの特徴という部分では反映例がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。キャリアパス、面接を通して評価している。勤務態度が優良な方には資格取得支援も視野にいれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	拘束や虐待の社内研修は随時おこなっている。職員それぞれの得意分野は評価し、苦手な部分に関しては個人の問題にせず、相互にフォローしあうよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は、認知症カフェ、楓シンフォニーで交流する場を設けている。楓シンフォニーでは研修会も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に重点を置いている。認知症の程度にもよるが、ほとんどの場合サービス利用開始段階は環境変化に対応できない諸症状が出やすい為、安心を得られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている。利用者様同様に困っていること等に耳を傾け不安を取り除くように努めている。また、グループホームでの生活について詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望がある場合や必要と判断した場合は他施設（特養など）に同時に入居希望を提出することを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行具合によって、できている方とできない方と差ができてしまうが、極力、共有と共感ができるように支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべてのご家族様と等しく絆をもって、ご本人を支えるという関係はできていない。遠方にいるご家族やあまり来られないご家族様とは関係構築が難しい。よく来ていただけのご家族様とは良い関係ができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の訪問も制限はしていない。現在もご友人の訪問は頻繁にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の合う合わないはあるが、基本的には良い関わり合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係が続くことは稀だが、一名だけ自宅復帰された方の経過フォローは行っていた。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。最近は意思表示ができる方が多くなってきた為希望や意向を良く聴くよう指導している。意思表示ができない方に関しては、できるだけ何が必要なかを常に考えながら支援するように指導している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りの段階で、ご本人の歴史、現在の生活リズム、他のサービスのお利用状況を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後も常に把握するように努めている。また、機能維持できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っている。その際、ご家族とも連絡を取り、意見を反映させた上で同意を得ている。また毎月そのつきの様子を書き記した手紙を送付している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。以前は業務日誌と申し送り帳は別だったが、統一することにより、より簡単に情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	楓シンフォニー（前デイサービス）という同法人内の部署を檜の利用者様も利用できるように整備した。毎週水曜日に利用できる体制を本年の12月から一回1500円にて利用できる。運営推進会議でも報告済みで、自治会長、民生委員の方にも誘致を依頼した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、地域自治会、民生委員、地域包括支援センターの協力を仰ぎながら、地域行事に参加できるように支援している。盆踊りや、フェスティバル、各お祭りに参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。大和ホームクリニック、グリーン薬局、虹色デンタルクリニック、藤和マッサージ、関水整形外科、桜ヶ丘中央病院、湘陽かしわ台病院と関係を築き、適切な医療を受けられる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体的な変化は、その必要性の種類によって訪問診療の看護師、施設内の看護師と振り分けている。ケースによって様々だが、新しい症状や医師の診察の可能性の割合によって分ける場合が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。ご家族ができる範囲はお願いしているが、ご家族の協力が得られない場合は、蜜に連絡を取り合い早期退院できるように協働している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の説明はその必要性があると判断した時はもちろんのこと、契約時にも説明している。大和ホームクリニックと共にご本人やご家族が安心納得できるように支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できていない。今後、救急救命、応急手当の訓練に取り組んで行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員は身につけていない。異動や退職者があつたため。地域との協力体制はできている。定期的に防災訓練はしているが、水害の訓練はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊重するように指導している。カーテンやドアのノック等、基本的なことはもちろんのこと、言葉遣いは特に注意するように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。現在の入居者は認知症状が軽度の方が多くなってきたので、自己の意思決定を尊重するよう職員に指導、実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の相談内容に、明らかな業務中心的な思考が内在している場合がある。そのときはまず、利用者本意になっているか、ご本人の納得できるポイントはどこにあるかを探るように指導及び支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。できればお化粧品と称した機会を設け外出する日を設けて行きたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。できる方は女性利用者様がほとんどではあるが、食事の下ごしらえ、食器拭きなどを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。起床時、10時、昼食時、15時、夕食時水分補給できるように支援している。また食時摂取量が少ない方に関しては、個別に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士に口腔ケアを行ってもらっている。また毎食時後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用している利用者様であっても、トイレで排泄するように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材提供業者に依頼している関係で食事内容の工夫は可能な範囲に限られているが、食後の運動は個々の能力に応じて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在、週二回の入浴日となってしまう。日曜日を自由入浴日として取り組んだ時期もあったが、定着していない現状がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由だが、なるべく昼夜逆転しないように支援している。それでも昼夜逆転してしまうご利用者がいらっしゃるの、今後の課題である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報については、投薬チェック表に薬名も記載しており、すぐに確認できる状態にしている。変化があった場合は、まず薬の情報を見るように指導実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を送れるように支援はできていない。今後、個別に外出支援できるような支援を考えて行きたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	近隣の公園や、ドライブなどには出かけているが、個別に外出支援できていない。ご家族の協力を得られる人とそうでない人。生活保護受給している方と一般の方との区別はどうすればよいかも含めて更に工夫できるようにしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方は所持してもらっている。使う場面は少ないが、今後使う場面を増やして行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。希望者のみだが応じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を感じれるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に工夫している。一人で過ごしたい方が多い現状ではあるが、食事の時の席順には十分に気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた箸や湯のみから、ベッドやお布団まで持ってきていただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。現在はできる方が多くなってきており、環境づくりに気を配っている。できない方に関しても、できる箇所を探すよう指導実践している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 櫛

作成日

平成30年11月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。